

町村週報

(町村の購読料は会費
の中に含まれております)

3237号

毎週月曜日発行

発行所 全国町村会 〒100-0014 東京都千代田区永田町1丁目11番35号：電話03-3581-0486 FAX03-3580-5955

発行人 横田真二：定価1部40円・年間1,500円(税、送料含む) 振替口座00110-8-47697

<https://www.zck.or.jp>



新緑の季節の田園とイチョウ祠 (千葉県大多喜町)

もくじ

随情 フォーラム 活 活
想報 ラム 動 動

荒木会長が「国内投資拡大のための官民連携フォーラム(第2回)」に出席 国内投資拡大に向けて規制緩和を含めた対策等を要望 荒木会長が「第1回」ことも未来戦略会議」に出席 「次元の異なる少子化対策」の実現に向けて議論 人づくり・地域づくり・まちづくりの好循環創生に向けて ―共に創る―香川県土庄町 町村ご当地キャラじまん………	大阪府太子町長 田中 祐一 (12)(11)(6) (4) (2)
---	--------------------------------------

コラム

農村の社会的豊かさへの出会い

早稲田大学名誉教授

宮口 侗 廸

わが国の農村社会は、つい最近まで長い年月、集落というまとまりで連続と続いてきた。もちろん貧富の差はあり、時には冷害に見舞われることもあったが、地域社会として極めて長い年月生き抜いてきた。米作りを基盤にしたその強さの背景に、水の豊かさや暑い夏という自然の恩恵があることはもちろんであるが、社会としても様々な仕組みが考え出されてきた。

筆者がわが国の農村集落の地域社会としての強さを改めて実感したのは、四半世紀前に富山県小杉町(現射水市)の町史の近代部分を執筆した時のことである。農家を訪ねて見せてもらった文書の中に、昭和になって発行された支配地券というものがあつた。地券とは明治初期の地租改正令に基づき、土地所有者と地価を明示して県が発行したものであるが、わが国の特に平野部の水田農村では、地租改正以降農地の売買が容易になり、地主と小作人が誕生していた。この支配地券は小作人を農地の支配人と位置づけ、農地を借りる権利を守る、いわば小作地券とも言つべきものであつたが、これによってその権利を地主の許可なしに売買することができたという説明は、初めてこれに出会った筆者にとって大変な驚きであつた。実際、その裏面には売買

の裏書があつた。これは小作人同士が、状況に応じて土地とお金を融通できたことを示し、わが国の村人が生き抜くために生み出した社会的な仕組みの一つであると筆者は理解した。

筆者は助手のころにイランの農村を訪れる機会があつたが、そこで地主小作関係はかつて極めて厳しいものであつた。そもそも農業には水が必要で、砂漠のような土地では資産家が投資して地下水を探して農地になる土地を選び、小作人となって農業をする人を集める。多くの場合水は山麓から力ナートと呼ばれる地下水路で畑に引かれるが、水主イコール地主であり、地主―小作関係は絶対的に強者と弱者の関係であつた。

イランではその後農地改革も実施されたが、そういう極端な地域を知ると、山々から流れる無数の河川を巧みに利用して水を引き、共同作業で水田を耕作してきたわが国の農村社会の支え合いについて、やはり忘れてはならないと思う。そのような基盤がわが国を支えてきたことが、日本人が世界から評価される気質を育んできた。過疎化の進行の中にあつても、人と人の支え合いの今の時代にふさわしい形を、ぜひ地方から創造していったらいいものである。

写真キャプション

房総半島に26.8kmの路線を有する「いすみ鉄道」は、のどかな田園風景とともに四季折々の風景やそこに暮らす人々の生活が垣間見える人気路線。なかでも、大多喜町の「イチョウ祠」は鉄道ファンに人気の撮影スポットの1つ。長年親しまれてきた旧国鉄形車両「キハ28 2346」(写真)は本年2月をもって引退した。

全国町村会

荒木会長が「国内投資拡大のための 官民連携フォーラム（第2回）」に出席 国内投資拡大に向けて規制緩和を含めた対策等を要望

荒木泰臣会長（熊本県嘉島町長）は4月6日、岸田内閣総理大臣が主催した「国内投資拡大のための官民連携フォーラム（第2回）」に出席した。

政府側は、岸田内閣総理大臣、松野内閣官房長官、松本総務大臣、鈴木財務・金融担当大臣、野村農林水産大臣、西村経済産業大臣、斉藤国土交通大臣、西村環境大臣、後藤経済再生・内閣府特命担当大臣（経済財政政策）、岡田デジタル田園都市国家構想担当大臣・内閣府特命担当大臣（地方創生）、井出文部科学副大臣、畦元厚生労働大臣政務官、中野内閣府大臣政務官、木原内閣官房副長官、磯崎内閣官房副長官、栗生内閣官房副長官が出席した。民間等団体からは、地方三団体のほか産業界等が出席し、国内投資拡大に関する意見交換が行われた。荒木会長は、国内投資の拡大が全国津々浦々で展開されるよう、規制緩和を含めた対策等を求めた。

はじめに、西村経済産業大臣は今回のフォーラムを開催した趣旨について、「地域圏への投資動向と今後の見通しを確認するとともに、さらなる投資拡大に向けた課題を伺いたい」と述べた。

続いて、後藤経済再生・内閣府特命担当大臣（経済財政政策）から「国

内投資拡大や研究開発の促進による生産性の向上と価格転嫁を通じたマークアップ率の確保による賃金の引き上げを車の両輪とし、成長と分配の好循環の実現に向けた動きに一気に拍車をかけるには、今が最重要であり、最後のチャンス。今回のフォーラムを契機として、成長と分

配の好循環の実現に向けた動きを大胆に加速し、新しい時代を切り開いていきたい」との発言があった。

また、西村経済産業大臣からは、「政府のさらなる支援措置による経済波及効果が期待される中、課題となっている人手不足にも対応できる新しい経済社会の構造を早急に作り上げていくためには、労働の質と量の両方を同時に上げていく必要があり、省力化や生産性の効率を上げる投資で対応していくことが重要。経済を再び成長軌道に乗せるための未

来への投資を経済産業政策の新機軸として大胆に進めていきたい」との発言があった。

その後意見交換に入り、産業界からは投資や賃上げに係る取組や国への期待、要望等について説明・意見表明が行われた。

意見交換の中で荒木会長は、「国内投資の拡大については、都市部だけでなく、地方を含めた全国津々浦々での展開が必要」であり、「地方へ企業が進出するためには、土地利用の整備・調整や、交通網整備等のインフラ整備が重要」としたうえで、未整備農地に係る規制が企業誘致の妨げになった実例を紹介しながら、規制緩和等を含めた対策や企業の本社機能の地方移転等を推進するよう求めた。

最後に意見交換を踏まえ、岸田内閣総理大臣から次のとおり発言があった。

「これまでの政策的な後押しも受けて、全国で、地域ごとの個性をいかした具体的な投資が、動き出していることを確認した。

経団連の十倉会長からは、昨年度の補正予算も受けて、国内投資拡大の取組が継続しており、2027年度に115兆円、政策強化でさらなる高みへ、との意欲的な見通しをお示しいただいた。日商の小林会頭が



▲出席する荒木会長

活 動



▲発言する岸田総理

らは、中小企業も、大いに投資・賃上げに取り組んでいることを示していただいた。

この春の賃上げについて、歴史的な高水準を記録しつつあるが、賃上げ原資の拡大につながる国内投資の拡大こそが、この賃上げ機運を持続させていくカギとなる。

また、先週、こども・子育て政策のたたき台を発表したが、特に若い世代の所得を増やす観点から、地方を中心とした投資拡大は、良質な雇用を増やし、若者の結婚・子育ての希望を高め、少子化対策にも貢献する。投資拡大・良質な雇用拡大は、こども・子育て政策を補完する重要な柱と位置付けている。

新しい資本主義では、国が呼び水となつて、GX（グリーン・トランスポーテーション）やDX（デジ

タル・トランスフォーメーションなどの社会課題の解決を成長エンジンとして、民間企業の投資を呼び込んでいく。これらの分野では、世界規模での立地政策競争が始まっており、世界に伍していけるような取組が求められている。

西村経済産業大臣が示したとおり、九州と近畿の半導体に対する官民による投資は、実際に好循環を生み出している。こうした事例を横展開していきたいと考ええる。政府による支援がコストで終わらず、投資として効果を発揮するよう、適切に執行していくことが重要である。

本日、産業界の方々から、予算だけでなく税制・制度面も含めた世界水準の投資促進策、戦略産業の国際獲得競争に負けないイノベーション環境の整備、地域の良質な雇用を支える中堅企業の振興、省人化投資等の人手不足への対応、といった要望をいただいた。

こうした要望について、新しい資本主義を実現する観点から、関係省庁で積極的な対応を検討し、骨太方針や成長戦略に反映することで、投資を拡大していく取組を実行していくこととしたいと考えている。」

岸田内閣総理大臣の発言後、フォーラムは閉会された。



車両共済(保険)のご案内

この車両共済(保険)は、町村生協の自動車共済で補償する対人賠償、対物賠償、限定搭乗者傷害等に加え「ご自身のおクルマの補償(車両保険)」を追加する制度です。お車が衝突した場合や台風・いたずら・盗難など偶然な事故で損害を被ったときに、共済(保険)金をお支払いします。

●お見積りのご請求・お申込み・お問い合わせなどは、下記までご連絡ください●

株式会社 千里 (取扱代理店)

〒100-0014 東京都千代田区永田町1-11-32 全国町村会館西館内

●ホームページアドレス <http://www.chisato-ag.co.jp>

お電話の際には、車検証をお手元にご用意ください

(受付時間：祝日、年末年始を除く月～金 午前9時30分～午後5時)

TEL 0120-731-087 FAX 03-3519-7325

●「車両共済(保険)制度」は、全国町村職員生活協同組合と損害保険ジャパン株式会社とが集団扱契約を締結し、実施しているものです。

●集団扱としてご契約いただけるのは、保険契約者および被保険者が損保ジャパンの定める条件を満たす場合のみとなります。

このご案内は概要を説明したものです。詳細については、取扱代理店(千里)までお問い合わせください。

〈車両保険引受保険会社〉 損害保険ジャパン株式会社

SJ21-00628 (2021.4.19作成)

全国町村会

荒木会長が「第1回こども未来戦略会議」に出席

「次元の異なる少子化対策」の実現に向けて議論

荒木泰臣会長(熊本県嘉島町長)は4月7日、政府が開催した「第1回こども未来戦略会議」(議長・岸田内閣総理大臣)に出席した。初会合となる今回は、こども・子育て政策の一般的な議論が行われた。

政府からは、岸田内閣総理大臣、後藤全世代型社会保障改革担当大臣(副議長)、小倉こども政策担当大臣(同)、松野内閣官房長官、鈴木財務大臣、永岡文部科学大臣、加藤厚生労働大臣、西村経済産業大臣等が出席した。

そのほか有識者として、地方三団体を含む関係団体や、子育ての当事者・関係者等が出席した。

会議において荒木会長は、町村における子育て支援施策等の現状を述べるとともに、全国どこに住んでいても基本的なサービスが受けられるよう、必要な財政措置と人材確保に向けた支援を求めた。

はじめに、後藤全世代型社会保障改革担当大臣が本会議について、「3月31日に小倉大臣がとりまとめた試案を受けて、『全世代型社会保障構築本部』のもとに総理を議長と



出席する荒木会長

して関係閣僚、有識者、子育ての当事者・関係者、関係団体が参画する新たな会議体を立ち上げることになった。今後必要な政策強化の内容、予算、財源についてさらに検討を深め、6月の骨太方針までに将来的なこども・子育て予算倍増の大枠を示したい。岸田政権が最重要課題と位置付ける次元の異なる少子化対策の実現に向けて、迅速かつ精力的に議論を重ねたい」と述べた。

続いて、小倉こども政策担当大臣より、3月31日にとりまとめた「こども・子育て政策の強化について(試案)」について、児童手当の拡充や保育士の配置基準の改善、こども医

療費助成に係る国民健康保険の減額調整措置の廃止等を含め、概要説明が行われた。

その後の議論の中で、荒木会長は、小倉大臣から説明があった「試案」に、地方団体が要望していた事項が盛り込まれたことに対する謝辞を述べた。

続けて、「町村の多くが人口減少に悩んでおり、このまま少子化が進めば、地域の存続が危ぶまれるという深刻な状況に直面している」としたうえで、「地域に暮らす若い世代が明るい未来を展望できる社会にするため、私たちは地方創生の取組等を通して地域の振興発展と持続可能性を追求している。こうした取組の積み重ねが、我が国の少子化対策にもつながるものと考えている」と述べた。

町村が実施している子育て支援施策等については、「財政力の違いや人材不足等により都市部と格差が生じている」と指摘し、全国どこに住んでいても基本的なサービスが受けられるよう、必要な財政措置と人材確保に向けた支援を求めた。

最後に同会議について、「岸田総理の力強いリーダーシップのもと、地方の声を十分に聴いていただきながら、戦略会議の議論を進めていただくことをお願い申し上げます」と述べて発言を締め括った。

活 動



▲荒木会長（最奥）と岸田内閣総理大臣（右から2番目）ほか出席する関係閣僚



続いて、出席した関係閣僚から順次発言が行われた。このうち鈴木財務大臣は、こども政策を強力に進めていくために必要となる安定的な財源について、「国民各層の理解を得

▲発言する岸田内閣総理大臣



ながら、社会全体での負担のあり方を含めて幅広く検討を進めていく必要がある」と述べた。

議論を踏まえ、岸田内閣総理大臣は、「こども・子育て政策に関しては、先日、小倉大臣のもとでたたき台をとりまとめてもらった。このたたき台を踏まえて、今後、必要な政策強化の内容、そして、予算、財源について、与党とも連携しながら、議論を深めていく。

このため、本日、全世代型社会保障構築本部のもとに、私を議長として、関係閣僚に加えて、新しい資本主義実現会議等の関係審議会の有識者の方々、子育てにさまざまな形で携わられているの方々、経済界、そし

て地方自治体の代表、こうした幅広い方々にご参画いただき、こども未来戦略会議を立ち上げることとする。皆さまには、ご協力いただくことを厚く御礼申し上げます。

今後、このこども未来戦略会議において、皆さまの知見をいただきながら、国を挙げて、必要な政策強化の内容、予算、財源についてさらに具体的な検討を深め、6月の骨太方針までに将来的なこども・子育て予算の倍増に向けた大枠をお示する。若い世代が希望どおり結婚し、希望する誰もが子どもを持ち、ストレスを感じることなく子育てができる。子どもたちがいかなる環境、家庭状況にあっても、分け隔てなく大切にされ、育まれ、笑顔で暮らせる。そうした社会を目指し、こども・子育て政策を大胆に、強力に前に進めていくに当たっては、世代や立場を超えた国民お一人お一人の理解と協力を欠くことはできない。

こども・子育て政策の強化について、精力的かつ迅速な議論を着実に進めることができるよう、構成員の皆さまにおかれては、ご協力いただくよう心からお願ひ申し上げます」と述べた。

岸田内閣総理大臣の発言後、会議は閉会された。



▲大切な人と手をつないで渡ると願いが叶うと言われる 小豆島の観光地「エンジェルロード(天使の散歩道)」

香川県 土庄町

とのしやうちよう



人づくり・地域づくり・まちづくりの
好循環創生に向けてー共に創るー

町の概要

土庄町は、香川県に属し、瀬戸内海の東部に浮かぶ小豆島の西北部に位置しており、豊島、沖之島、小豊島などの有人島を含めた地域を行政区域としています。面積は、74.38^{km}、人口は約1万2千人で、旧村単位の7地区に区分され、54の自治会があります。

小豆島の大きさは、15.3・27^{km}、瀬戸内海では淡路島に次いで2番目に大きい島で、山地が多く高い山が海岸にまで迫っており、そのおかげで小豆島には、寒霞渓や銚子溪など、人々を魅了する美しい自然が数多くあります。平地は少ないため、民家はそこに集中しています。



▲瀬戸内国際芸術祭作品はじまりの刻(三宅之功)

気候は、明治41年、ヨーロッパ地中海から初めて持ち込まれたオリーブの木がわが国で唯一小豆島だけに根付いたように、四季を通じて雨が少なく温暖な瀬戸内式気候です。
小豆島には、土庄町と小豆島町の2つの町があります。小豆島町のほうが

フォーラム

面積も人口も若干大きくなって多いですが、概ね同規模の自治体同士で、さまざまな面で2町連携して事業に取り組んでいます。

もともと小豆島は、「二十四の瞳」や昭和40年代の第一次離島ブームなどにより「観光の島」として認知されていますが、近年は、平成22年から3年ごとに開催されている瀬戸内国際芸術祭の開催会場になったこと、土庄町が舞台のモデルとなっているテレビアニメ「からかい上手の高木さん」が映画化されたこと等により、島特有の自然や文化はもちろん、アートの舞台やアニメの聖地として、新たな島の魅力



▲海へ駆ける坂道（豊島美術館近くの映えスポット）



▲戸形地区

が創出され、多くの来島者が訪れています。

特に最近では、来島された方々が、各島々の「映えるスポット」を撮影し、それらをSNSに投稿することによって、小豆島や豊島を知る人が増え、それが来島するきっかけになるといった好循環が生まれています。

NPO法人・地域おこし協力隊と連携した移住定住推進施策

従来の観光スポットを巡る観光スタイルから旅行者自身が興味のあるものを体験する形へと観光形態が変化していく中で、船で島々をめぐる非日常的な楽しさを知り、各島々の自然・文化・



▲集落の手帖動画版

資源・歴史・アートなど土庄町にしかない魅力を味わい、そこで出会った住民の心温かなおもてなしに触れることで、リピーターとなる方が多いです。

そして、島暮らしをイメージするようになり、そのうちの一部の方が実際に移住するという流れが主流となっています。

以上のように、土庄町に移住する最初の入り口として観光の重要性は非常に高く、まちや地域住民の魅力に惹かれ、また島を訪れたいという関心・行動から島に住みたいという興味・関心に変化し、最終的に移住↓定住という行動につながっています。

移住定住推進施策については、平成

19年に小豆島町をはじめとする関係団体等で構成した小豆島移住・交流推進協議会を設立し、島をあげて取り組み始めました。その後、平成28年にNPO法人totie（トティエ）が設立され、協議会と協働でさまざまな事業を行っています。

トティエについて簡単に紹介しますと、名称は、「むすぶ」を意味する英語「tie to」とtoti（土地）とie（家）をつなげた造語です。当初は、瀬戸内国際芸術祭の開催をきっかけに移住者が増加している点と活用されていない空き家や空き地が増加している課題に着目し、島内に2つの町があるという行政区の壁を越え、官民一体となって地域課題に取り組んでいく体制が必要不可欠であることが



▲小豆島空き家見学ツアー

フォーラム

ら、小豆島・豊島を対象に「移住促進」と「空き家・空き地の活用」を主な活動として設立されました。

現在は、この協働体制に両町の地域おこし協力隊も加わり、主に移住相談、情報発信、移住セミナーや相談会、交流イベント等の事業に取り組んでいます。昨年度は、移住を検討している人や移住してきた人へさまざまな角度から小豆島・豊島を知ってもらい、移住・定住促進へつなげることを目的とした移住ガイドブック三部作を完成させました。こういったさまざまな事業に取り組むことにより、直近5年平均で約450人／年が小豆島・豊島へ移住



▲小豆島単独セミナー



▲移住ガイドブック三部作

しています。

【移住ガイドブック三部作概要】

(電子ブックアドレッシングURL: shimajurashi.jp/guidebook/)

①島ぐらしの手引き：小豆島・豊島をより理解してもらい、住み始めてからのギャップに悩まされないよう居・職・住を中心とした島暮らしを紹介。

②島びとの日々：移住を検討されている方たちへの参考書的なものとして、インターン者12名にインタビューし、それぞれの移住前から現在の暮らしについて紹介。

③集落の手帖：それぞれ雰囲気や歴史・文化・風習が異なる多様性にあふれる各地区・集落の情報を住民目線で紹介。

現在のトテイエの活動は、「定住促進事業」、「雇用対策事業」、「高校や大学等との連携・調査事業」など移住前から移住後にわたる寄り添った支援と持続的な地域づくりへ向けた分野にも範囲を広げています。そのうちの「高校や大学等との連携・調査事業」においても、土庄町域学連携事業と協働で取り組んでいます。

産民学官協働の土庄町域学連携事業とこのしようキャンパス

土庄町域学連携事業は、土庄町と地域連携活動を積極的に展開している大学が連携して、小豆島・豊島の魅力や地域資源を掘り起こすとともに、町民・島民の協力を得ながら地域が抱えるさまざまな課題を発見・分析・解決していく取組のことで、目的は、次の3つです。①土庄町の各地区・各集落や小豆島・豊島一帯で培われてきた文化を継承・発展させ、地域を活性化していくこと。②土庄町および小豆島の未来を担う島内・島外の若者(例えば小豆島中央高校の生徒や島外の大学で学ぶ大学生)に対して、「地球規模で考え、



▲域学連携事業の様子

フォーラム

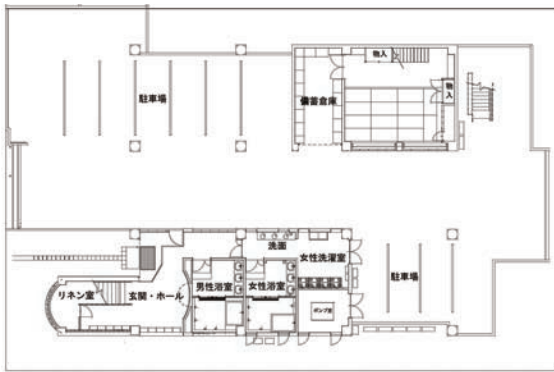


▲土庄町域学連携交流施設『夢すび館』外観

足元から行動せよ（Think Globally, Act Locally）」を実践できるような学びの場を提供していくこと。③土庄町民や町外からの来訪者が、小豆島・豊島の歴史や文化に対する理解を深め、自らの視野を広げ、それぞれの人生を充実させられるような学びの場を創り出していくこと。

域学連携活動を円滑かつ継続的に進めていくために、現在、次の4つの大学と包括連携協定を結んでいます。

①京都産業大学（平成27年11月締結）
②武庫川女子大学・武庫川女子大学短期大学部（平成29年12月締結）
③香川



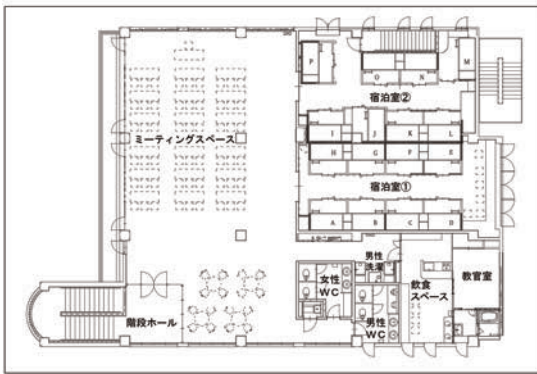
▲交流拠点施設1階図面

大学（平成30年10月締結）
④徳島文理大学（令和2年10月締結）

土庄町と協定大学は、相互の人材交流や物的・知的資源の活用を積極的に進め、土庄町および小豆島全体の発展と未来を担う若い世代の育成を図ることを目的として、特に次の事項について連携・協力活動を行っています。

①地域社会の活性化②地域住民の健康・福祉の増進③環境の保全④文化・教育の振興⑤産業の振興、まちづくりの推進⑥人材の育成⑦先に挙げた協定目的を達成するために町と大学が必要と認めた活動

こういった活動を行う拠点となる滞在施設が、土庄町域学連携交流施設愛称『夢すび館』です。この『夢すび館』を拠点として、連携事業や意見交



▲交流拠点施設2階図面

換、共同研究、フィールドワーク等を行っています。旧法務局土庄出張所であった施設を町が取得し、地方創生拠点整備交付金を活用して改修、平成30年3月から供用しています。

【土庄町域学連携交流施設『夢すび館』施設概要】

◆構造：鉄筋コンクリート造2階建て

◆各階内容…

1階…玄関ホール、男性浴室、女性浴室、女性洗濯室、リネン室

2階…ミーティングスペース、宿泊室、男女WC、男性洗濯コーナー、飲食スペース、教官室

◆宿泊室内容…2室あり。男女別でも利用可能で、各部屋16名宿泊可能（2段ベッド×8）

◆施設内には、プロジェクター、スク



▲域学連携事業－フィールドワークの様子－

リーン、寝具、各家電製品、調理器具等を設置

◆施設使用料…1日1,000円/人

この施設を使用できる団体は、①地域との連携交流による地域活性化を図る大学の授業クラス等、もしくは、②町と包括連携協定を締結する大学の公認団体のみとなっております。令和4年度は、包括連携大学の4校をはじめ、神戸学院大学・東京農業大学・筑波大学・神奈川大学・龍谷大学などの各ゼミや団体が夢すび館を拠点として活動を行っています。

事業当初は、大学と行政主導で進めていましたが、数年前からトテイ工と

フォーラム

事業連携に取り組み、また、令和4年の1月には、この域学連携事業促進をミッションとした地域おこし協力隊員を新たに採用することで、地域の受け皿体制の基盤強化を図り、事業を創生期から発展期への転換を図っています。今後は、大学と町内7地区をそれぞれマッチングすることで、地元住民や地元企業との接点強化や継続性を持たせた活動につなげ、地域課題解決や町の重点方針の深化・発展に広がるよう取り組んでいきたいと思っています。

おわりに

人口減少が及ぼす地域社会・地域経済の衰退が懸念される中、土庄町の重要課題の一つとして、地域社会・地域経済を支える人材の育成と確保が挙げられます。国内外の一人でも多くの人々に土庄町の魅力を知っていただき、観光・移住・定住の促進や関係人口・交流人口の創出を図り、土庄町や小豆島にしかない良さをコツコツとくりあげていく。それにより、さらに新たな好循環と広がり生まれ、地域社会や地域経済の維持・向上につながり、持続的な地域づくりからまちづくりへと発展していく。そんな循環を地域住民の方々と共に創っていききたいと思っています。

香川県土庄町長 岡野 能之



▲土庄町で見られる絶景(豊島唐櫃の棚田、夕日でのSUP)

地域づくりの「元気の素」を募集中！

令和5年度あしたのまち・くらしくり活動賞募集

(公財)あしたの日本を創る協会

同協会はこのたび「令和5年度あしたのまち・くらしくり活動賞」の応募受付を開始した。

同賞は、全国各地で開催されている活力のある地域づくり・くらしくり・ひとづくり活動に取り組み地域活動団体等の優れた活動を顕彰するもの。

○対象

応募対象は、地域住民が自主的に結成し運営している団体や、こうした団体と積極的に連携して地域づくりに取り組む企業、商店街、学校など。地域に即した発想・リーダーシップ・方法などにより、2年以上活動し大きな成果をあげており、市区町村地域程度までを範囲に活動している団体を対象とする。

○応募対象となる活動内容やテーマ

災害に強い安心安全な地域づくり、住民同士の支えあい活動、地域コミュニティの維持、子育て支援や居場所づくり、子ども食堂、高齢者の生きがいづくりや日常生活のサポート、震災復興のまちづくり活動や復興支援活動、生活環境の改善、地域文化の振興、資源リサイクルや地域環境保全、都市と農山漁村との交流、地域の伝統を生かした食育・地産地消活動など、住み良い地域づくりにふさわしい活動。

○応募締切

7月3日(月)

○応募方法

①応募用紙(ホームページの所定の用紙に記入)、②応募原稿(これまでの活動内容と現在までの成果等を2000字程度)、③写真(活動の様子がわかる写真5〜6枚程度)を合わせて提出。同協会へEメール(poline@ashita.or.jp)で送付。郵便・宅配便も可。

○賞(予定)

内閣総理大臣賞(賞状、副賞20万円)、内閣官房長官賞(賞状、副賞10万円)、総務大臣賞(賞状、副賞10万円)、主催者賞(賞状、副賞5万円)等

○主催

(公財)あしたの日本を創る協会、読売新聞東京本社、NHK

○後援(申請中)

内閣府、総務省、文部科学省、こども家庭庁、全国知事会、全国市長会、全国町村会、日本商工会議所、全国商工会連合会、日本青年団協議会、(一財)長寿社会開発センター、(一財)日本宝くじ協会

○問い合わせ先

あしたの日本を創る協会(TEL03-6240-0778)まで。

詳細は同協会ホームページ(<http://www.ashita.or.jp/>)を参照。

町村

ご当地キャラじまん

Vol.118

中ブロック

特産品だけじゃない!

文化・歴史を身にまとして観光大使!!

ご当地自慢のおいしいものや伝統行事を身にまとい、体を張ってPRしているご当地キャラたちを紹介するコーナーです。今回は、中ブロック(北信・東海・近畿)からピックアップ。



八千穂高原忍人の聖地生まれの白樺の妖精。誕生日は7月28日。頑張り屋さんで働き者の女の子。佐久穂町の美味しいものと佐久穂町の人たちの笑顔が大好き。趣味はおしゃべりと食べ歩き。嫌いなものはチキンソテーの音。

佐久穂町公式キャラクター



しらかばちゃん

長野県佐久穂町

平成24年(2012年)、佐久穂町のPRを目的に、公募を行い、誕生したキャラクター。日本一美しいといわれる白樺林のある八千穂高原の白樺がモチーフです。チャームポイントでもあるハートの葉っぱの手で、なでなでされると幸せになれるのだから。町内のさまざまな職種の現場に訪ねていってお手伝いをしたり、自ら植樹イベントに参加したりと、見た目のかわいらしい雰囲気からは想像もできないほど、アクティブで働き者の「しらかばちゃん」。ツイッター等のSNSを活用して、佐久穂町の魅力を伝えるべく、季節の風物詩や日常の何気ない風景、イベントの報告等を発信しています。これからも、町内のイベントはもちろんです、時々町外にも出かけて行って、佐久穂町と八千穂高原の魅力を広めていく活動を続けていきます。

函南町イメージキャラクター

カンちゃん・ナミちゃん

静岡県函南町

平成13年(2001年)8月に開催された子ども議会で、小学生から「町を象徴するようなイメージキャラクターを作るとはどうか」との提案があり、広報かんなみを通じてデザインを公募。翌年10月1日に選定された男女のキャラクターです。髪型で静岡県を表現しているので、頭頂部には冠雪した富士山があり、前髪は伊豆半島になっています。前髪にあるカンちゃんの星マークとナミちゃんのハートマークは、函南町の位置です。ご当地キャラクターのずっと前から活動しているふたりは、町内の楽しいイベント以外にも、県外のご当地キャラクターイベント等にも参加して、函南町をアピールしてきました。普段は、函南町の温泉会館「湯トピアかんなみ」に居ることが多いのだとか。これからも仲良くふたりで、函南町の魅力発信と知名度向上に貢献していきます。



青いスポンのカンちゃんは男の子、赤いスカートのナミちゃんは女の子。ふたりとも10月1日生まれ。年齢は不詳。顔がちよっぴり怖くて、表情は硬いが、ふたりとも心優しい性格。町の特産品はどれも大好物。

東郷町イメージキャラクター

トッピー

愛知県東郷町



11月11日生まれ。東郷町の豊かな森の中で生まれた妖精で、若き偉大な王子様。明るくて元気で、水のように優しく、緑のように豊かな心の持ち主。趣味はボートで、レガッタの大会で優勝することを目指している。

平成24年(2012年)5月〜6月にキャラクターデザインを全国に公募し、応募作品716点の中から、キャラクター選定委員会が5点の最優秀作品候補を選出しました。同年11月11日に開催された第30回東郷町文化産業まつりの来場者、町職員及び町議会議員による投票の結果、誕生したのが「トッピー」です。頭の王冠は、町の木・モッコクをイメージしていて、首には町の花・アヤメがあしらわれています。ボートのまち・とっごう、をアピールするために、手にはボートのオールを持っています。名前は、町名の頭文字「ト」と、幸せ(ハッピー)の「ピー」を組み合わせたものです。チャームポイントはつばらな瞳。いつも一緒にいる「トリさん」がお気に入りなのだとか。町主催のイベント等に参加するなどして、これからも町を盛り上げていきます。

今回は、西ブロック(中国・四国・九州・沖縄)からご紹介します

随 想

「おたいしさんがおるから、こちらには守られてるよね」などと地元住民が今でも親しみを込めてそう呼ぶ、町名の由来でもある聖徳太子が眠るまちが太子町です。令和3年には没後1400年ということで、聖徳太子御廟のある叡福寺で大規模な法要が行われました。金剛峯寺・延暦寺・両本願寺など各宗派の本山が多数参加され、改めて聖徳太子の仏教普及への貢献の大きさを知ることとなりました。その他さまざまな記念事業が行われましたが、中でも聖徳太子没後1400年記念実行委員



おたいしさん

大阪府太子町長 田中 祐二

に現代を生きる我々にも影響を与えていると言えます。

太子町は、大阪府の東南部に位置し万葉集にも詠まれた二上山を境に奈良県と隣接し、面積14・17km²、人口約1万3,000人のコンパクトな町です。町内には多くの古墳が存在し、特に敏達・用明・推古・孝徳天皇陵と聖徳太子御廟を合わせた5つの古墳は、梅の花びらに似た配置となっていることから「梅鉢御陵」と呼ばれています。また、平成29年に日本遺産に登録された最古の官道・竹内街道が町内を縦断しており、

た、二上山は初心者でも気軽に登れる山として人気があり、今年の元旦には初日の出を観ようという人で早朝から山頂が溢れかえりました。このように歴史遺産と自然に恵まれたところでありながら、電車に乗れば約30分で、日本一の高さを誇る超高层複合ビル「あべのハルカス」へ行くことができるように、大阪市内へのアクセスも良く、私自身は子育てに本当に適したところだと思っています。

太子町では笑顔溢れる活気のある町を目指しており、公民連携、デスク

会が中心となって近鉄・上ノ太子駅前建立された聖徳太子像は多くの住民の寄附により実現に至りました。まさに太子町民のシビックプライドの表れで、次の百年にむけたシンボルとなっています。聖徳太子の事績はさまざまありますが、作家の故堺屋太一氏は、聖徳太子が旧教の神道を否定することなく仏教との習合思想を考え出し、そのことが日本においての大きな宗教戦争がないことにつながり、さらに「ええところり」の気風が日本に定着したと書かれています。まさに和の精神ととも

当時の情景に思いを馳せながら歴史を肌で感じることが出来ます。主な産業は農業ですが、昔からみかんやぶどうの栽培が盛んで、10・11月は西日本最大級の「上の太子観光みかん園」に多くの来園者が訪れます。ぶどうは、皮ごと食べられるシャインマスカットが大人気で、直販所は連日行列ができるほどの賑わいを見せています。依然として農家の後継者不足という課題もあるものの、近年は新規の就農者が増えており、引き続き近親者だけに頼らない事業継承の推進が重要と考えています。ま

を立ち上げ、企業や大学など多様な主体と連携したまちづくりを進めています。主な取組として、インターネットテレビ「太子TV」の放映、太子町産みかんを使用した飲料水の開発、打ち上げ花火の実施、健康講座、暮らしの便利帳の作成、高齢者の見守り、サイクルツーリズム、プロサッカー選手によるスポーツ教室、プロサッカー観戦などがあります。その公民連携の取組の一環として、積極的に企業や事業者を訪問し、新たなふるさと納税の返礼品の発掘を行ったことにより、令和3年度に

は前年度の約82倍の1億1千万円、さらに令和4年度も12月末時点で、すでに前年度の3倍を超える寄附を全国から頂いております。小さな町にとつてありがたい貴重な財源であり、子育て支援等で有効に活用したいと考えています。

年中行事の主なものとして、4月には叡福寺で大乗会式と聖燈会が行われ、7月の「山田だんじり祭り」では、江戸時代に造られた大変珍しい舟形地車が今も曳航されています。8月には各町内会で地藏盆が行われ、10月には竹内街道灯路祭りが開催されます。いずれもコロナ禍の影響でここ数年開催されてないものもありますが、今年では以前のような賑わいが戻ることを祈っています。

さらに、昨年は町中が大いに盛り上がった出来事がありました。本町出身で町PR大使に就任されている、サッカーの前田大然選手が昨年末のFIFAワールドカップカタール大会で日本代表として大活躍されたことです。万葉ホールでパブリックビューイングを実施して、ご両親とともに応援し勇気と感動を頂きました。

町の活性化にはやはり人との出会いが欠かせません。今後「おたいしさん」がどんなお導きをして頂けるか大いに楽しみです。